

ワクワク通信

ガスも電気もリフォームも水道も!!

量販店の価格で、専門店のサービス

社長エッセイ

「おもてなしの心」

10月1日來年度の新社員の内定式を市内のホテルで行いました。初々しい姿の彼等は緊張の面持ちで授与式に臨んでおりました。



これから社会人としての第一歩を踏み出す訳で有りますが、それには我々の教育が大きく影響いたします。プロとしての厳しさ、何より当社の標榜する「顧客第一主義」としてのお客様へのおもてなしの心を理屈ではなく体で覚えこませねばなりません。それには現役社員一丸となって色々な方法を使いながら指導しております。

この日も厳肅なる内定式の後、最上階に場所を移動しての懇親交流会では緊張を解すのと早く溶け込むための場作りに専念しました。

現役正社員ばかりでなく堅信会(検針パート社員グループ)。創建会(工事協力会社グループ)や取引メーカーの代表の方々が集い、賑々しく行われたの

ですが、そこでは我々現役正社員が日頃のお客様に対してのサービス精神を発揮し、余興を盛り上げた訳です。

1か月位前から仕事が終わった後チーム毎に特訓を積み、その成果を披露しました。

全部写真をお見せすることが出来ないのは残念ですが、4チームとも特訓の成果を十分に発揮出来たと思います。(写真は事務所チームで結成したI(アイ)ガールズ・ダンスチーム)誰が何色かは事務所においてになって探して下さい。

このように歌あり、劇あり、ダンスありの立食パーティー2時間はあっという間に過ぎ当初緊張していた彼らの顔つきも大分ほぐれ一体感が醸成出来たと確信いたしました。

(写真をご覧ください。)

この試みは新入社員をお客様に見立ててのおもてなしを現役社員が表現した訳ですが、今後は社会人1年生の新入社員達がお客様に対する心得を少しでも学び取ってくれたら幸いです。来年からは自分たちの番ですぞ!!



ふるさと紀行

愛宕山の十三天狗

むかし、岩間山といわれた愛宕山には、杉山僧正を首領とする十二人の天狗が住んでいました。それぞれ羽うちわを持つて雲に乗り、大空を矢よりも早く飛びまわって魔物を打ち払い、厳しい修行によって身に付けた術を使って重い病人を救ったり、天候を予知して作物の豊凶を占ったりして、信者に幸せをもたらしていました。

そのころ、格内村(むじなうちむら)の長樂寺に大変親孝行なお坊さんがいました。そのお坊さんの母親は大変信心深く、方々のお寺やお宮へお参りしていました。一度でいいから津島の祇園祭を見たいものだ」と、口ぐせのように言っていました。お坊さんは、何とかして願いをかなえてやりたいものだと考えました。そこで、毎夜のように天狗のもとを訪ねて一生懸命弟子にしてほしいと頼みました。断られても断られても熱心に頼み込んでやつと許されました。その夜から空を飛ぶことのできる天狗の技を身につけるための、きびしい修行が始まりました。お坊さんは体を軽くするために食事を減らし、木の根や草の汁をすすり、大木のとっぺんから突き落とされたり、石段から蹴落

とされたりのきびしい修行の連続でした。お坊さんは昼間はお寺で仏様に仕え、夜になると道中を飛ぶように橋って愛宕山の天狗のもとで修行に励みましたので、お坊さんの顔はやせ細り、鼻は高く眼が鋭くなつて、まるで、天狗の形相そのものになりました。

ある年の祇園祭の日のことです。お寺から突然帰ってきたお坊さんが、「母上、尾張の津島の祇園祭に連れて行きますよ。さあ早く支度をしなさい」といいました。「何を言うのです。津島までは百里もありますよ。みんなは十日も前に出発しているのに、いくら急いだって今からじゃ間に合うはずがないでしょう。」「大丈夫。母上は目をつぶって私の背中におんぶして下さい。でも途中で絶対眼をあけてはいけませんよ」と、お坊さんに言い聞かせてから家を出発しました。間もなく大きな松の木下にお母さんをおろして、「さあ母上着きましたよ。眼をあけてみて下さい」と、言われて恐る恐る眼をあけてみると賑やかな祇園祭の風景が飛び込んできました。驚いたお坊さんで、お母さんは、息子と連れ立ってさっそく祭りに見物に出かけました。一日をあちらこちらと案内されて楽しく遊び暮らして夕方になりました。お坊さんはまた眼かくしをしたお母さんをおんぶして家

へ帰ってきました。「母上、私はとてむくたびれたのですぐ寝ます。私がひとり起きてくるまで、絶対部屋に入らないでください」と言っ、寝床に入りました。しばらくして、心配になったお母さんが「そーっ」と部屋をのぞくと、息子は天狗の姿になって、寝床の上で大の字になって、グーグー高いびきで眠っていました。「あれーっ。大変だあ」とお母さんの悲鳴に驚いて飛び起きたお坊さんは、そのまま何処へともなく走り去って、母親のところへは再び現れませんでした。

それからしばらくして、誰言うとなく「長楽寺のお坊さんが天狗になって愛宕山に住んでいる」と伝わりました。そして、山頂の飯綱神社の祭礼には十三人の天狗にお供物のお膳を用意して供えるようになって、十三天狗が祭られるようになりました。

現在、愛宕山頂の愛宕神社などでは、十三天狗に罵声を浴びせ、御利益を求めて天狗の供え物を奪い合うという奇祭「悪態まつり」が行われ、『日本三大奇祭』の一つとされています。



現在の愛宕山の様子

いばせき インフォメーション

イワタニEXPO in つくば

過日、10月25日につくば市の国際会議場1F大ホールにて「EXPO in つくば」というイベントを開催しました。主催は当社を筆頭に7件のガス会社で行いました。



当社はこれまでいくつものイベントを開催して参りました。今回このイベントがこれまでと違った点は、水素を取り扱ったブースを設置したということと、水素を取り扱ったブースを設けたということと、水素が「水素?」と聞かれる方もたくさんいらっしゃると思ひますので、そのあたりを簡単にお話しさせていただきます。

最新のガス機器には使いや



ところで、水素のブースをのぞいてみると何やら実験らしきものをしていました。集まってくれた20人くらいの子供たちが座るテーブルのうえにはLEDとピーカーに入った塩水、そして+（プラス）と-（マイナス）の電極（電気をあつめる道具）が、乾電池が置かれています。



子供たちはまるで初めてのおもちゃを見るようにキラキラした熱い視線を注いでくれました。講師の指示の通りに実験を進めるとまず乾電池から流れた電気がピーカーの中の塩水に充電されました。その電極を今度はLEDに繋げると、LEDのライトが強く発光しました！大人のわたしがみても「なるほどなあ」と驚かされました。いわゆるこれが話題の「燃料電池」というものです。水素と酸素の化学反応で発電しており、

排出されるのは水だけなので、これは確かに究極のクリーンエネルギーと言えます。

皆さん、最近よく「エネファーム」という商品の名前を聞くことが増えていませんか？

エネファームではまさにこの実験で行った方法で基本的に発電し、その時に発生する熱でお湯を沸かしているのです。

ているのです。水素を使った家庭用機器も、既に世に出ているのです。

因みにトヨタは12月に「ミライ」という燃料電池車の販売を開始します。

「水素」それは、遠い未来のエネルギーではなく近い将来わたしたちの家庭や社会全体でも使われるものだと思ひました。当社では水素を販売することもできます。いつの日かLPガスと共に、皆さんのご家庭に水素をお届けに参る日がくるのではないのでしょうか。

最後に、当日お越しいただいた皆様、大変お忙しい中当社のイベントに参加頂き誠に有難うございました。ご来場頂いたお客様は当初予定した人数より大幅上回っておりまして、この場を借りて御礼申し上げます。



近未来といえばセグウェイ！

お知らせ

年始の準備は万端ですか？

新年を彩る年賀はがき販売のお知らせです。

発売期間

11月1日～

1月9日まで

取扱いはがき



ハローキティ年賀 62円

その他：

- ・絵入り
- ・ティズニーキャラクター
- ・いろいろ年賀
- ・無地

※一枚 52円

また、お電話でご注文頂ければ配達も致します。枚数は自由ですので少量からでもお気軽にご利用ください。

その他、郵便切手・はがき・も収入印紙・茨城県収入印紙等も随時、取り扱っています。